

きつ おん
吃音のある
子どもが
クラスにいたら



吃音は なおるの？

現在のところ、確実に吃音を根治させる方法はありません。
すらすら話せるようになる子どももいれば、吃音が続く子どももいます。一般的に年齢が上がると吃音が消える確率はだんだんと下がっていきます。
先生方に大切にしてほしいことは、「吃音があっても、話したいことをのびのびと話せること」です。
周りの大人には、吃音があっても安心して話せるように環境を整える責任があります。



社交不安症の 予防

社交不安症（社交不安障害）とは、注目を浴びることに対して不安や恐怖を感じるあまり、人と関わる場面を避けがちになる疾患です。思春期以降、吃音のある人は社交不安症になりやすいと言われています。

社交不安症は、不登校の一因になることもあり、小学生のころから予防することが重要です。つまり「吃音があっても、話したいことをのびのびと話せること」です。

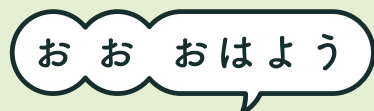
小学生でも次のような形で話す場面を避けがちになることがあります。

- ・答えがわかっているのに、「わからない」と答える
- ・やりたい役ではなく、セリフが少ない役を選ぶ



吃音について

言葉がどもることを吃音（きつおん）といい、次のような話し方が見られます。



繰り返し



引き伸ばし



なかなかでてこない
(ブロック)

- ・話すときに、顔や体の一部に力が入ったり、動かしたりすることがあります。（随伴症状）
 - ・人によって吃音が出やすい場面や症状の頻度が異なります。
 - ・症状の頻度が少ないからといって、悩みが少ないとは限りません。
- ・吃音のある小学生は、ことばの教室（通級指導教室）に通って、支援を受けることができます。

吃音の原因

吃音は本人のもつ生まれつきの要因が大きいことが分かっています。ストレスや家庭環境、本人の性格（緊張しやすい、気が弱い等）によるものではありません。

本人なりの“工夫”

吃音がある子どもは自然に以下のような“工夫”を身につけることで、言葉の症状が目立たなくなることがあります。ただし“工夫”で不安が軽減されるとは限りません。

言い換え …… 言いにくい言葉を別の同じ意味の言葉に置き換えて話す。例：校庭→グラウンド

挿入 …… 「えっと」「あの」などの言葉をはさみながら話す。

成人の吃音

大人で吃音のある人の割合は、人口のおよそ1%です。これは「田中」という苗字を持つ人の割合とほぼ同じです。教師、弁護士、俳優など、話すことの多い職業で活躍する人もたくさんいます。

安心して話せる環境づくりを

からかい、いじめを許さない

- ・ からかいやいじめは絶対に許してはいけません。
- ・ 吃音に対するからかいやいじめは、子どもの心を深く傷つけ社交不安症の要因となります。
- ・ からかいやいじめの様子が見られたら、すぐにやめさせてください。

吃音を知ってもらう

- ・ 周りの子どもに吃音を知ってもらうことで、自分の話し方で自由に話しても良いという安心感を得られます。
- ・ からかいやいじめの予防にも繋がります。
- ・ ただし周知することをためらう子どもも多いので、周知するかを本人とよく相談してください。
- ・ 伝える方法や時期、内容もよく相談してください。
- ・ ことばの教室に通っている子どもは、ことばの教室の先生に手伝ってもらうのもよいでしょう。
- ・ 「わざとじゃないので、まねや指摘はしないでね」と伝えることが、重要です。

例：「これが僕の話しかたから」

例：「きつおんっていうんだよ。わざとじゃないんだ」



子どもの話を聞くときは

- ・話し方のアドバイスはせずに、ゆったり最後まで聞いてください。
- ・「吃音が生じたかどうか」よりも、内容や話す意欲を大事にしてください。

✕「落ち着いて。ゆっくり話してごらん」

※緊張しているから吃音がでるわけではありません。

✕「そんなにどもってないから大丈夫だよ」

※吃音が悪いことというメッセージになることがあります。

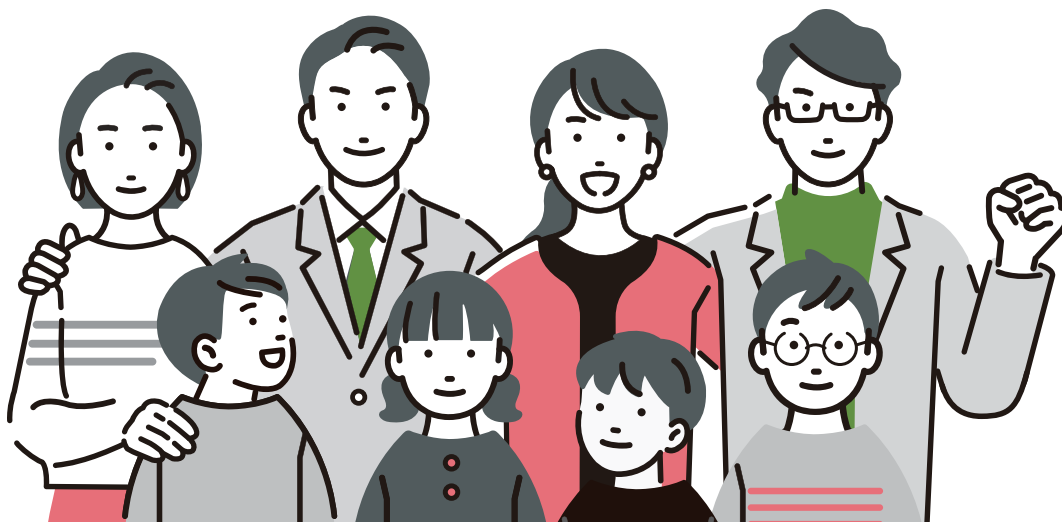


必要な配慮を

- ・安心して学校生活を送ることができるよう、必要な配慮をお願いします。
 - ・本人が納得できるよう、よく相談することが重要です。
- 例：発表や音読、委員会発表、学習発表会では、先生や友達と声を合わせて言うと言いやすい
- 例：「今は当てないでください」といった合図を決めておく
- 例：答えるときに、ノートに書いてもらう
- 例：九九の暗唱テストでは、制限時間をなしにする（延ばす）

一人で悩むことのないように

- ・「こんな話し方は自分だけじゃないのか」と考え、人に相談できない子どももいます。
 - ・吃音での困りごとを一人で解決しようとしても、うまくいかないことが多いので、ぜひ周囲の大人に相談してほしいと思います。
 - ・そのためにも、子どもと吃音について話し合える関係性が大切です。
 - ・「言葉が出にくくて困っていることない？」といった声かけをして下さい。
- ※子どもと吃音の話をしたからといって、吃音が悪化することはありません。
- ・学校の先生が、相談しやすい大人であると子どもの助けになります。



私たち言友会は「吃音があっても、豊かに生きる」方法を見つけ、実現することを目的とした吃音のある人のセルフヘルプグループです。周囲が吃音に対する理解を深め、適切な関わりを行うことは、吃音のある子どもにとって大きな支えとなります。吃音のある子ども達が豊かに生きる社会を一緒に作っていきましょう。



こちらの動画も参考にしてください

『先生たちに知ってほしい吃音のこと』中学校・高校の先生方へ』



言友会では、吃音のある子どもが参加できるイベントも随時開催しています。詳しくはホームページをご覧ください。

制作：NPO法人
全国言友会連絡協議会
社会的支援推進委員会

ホームページ <https://www.zengenren.org>
Mail info@zengenren.org



令和6年8月21日（第2版）

監修：富里周太（医師・慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室）
田宮久史（言語聴覚士・JA 岐阜厚生連 飛騨医療センター 久美愛厚生病院）
安井美鈴（言語聴覚士・大阪人間科学大学保健医療学部言語聴覚学科）
戸田祐子（きつおん親子カフェ代表）

このリーフレットの
ダウンロードはこちらから